

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	ソーサラー	Lv.1:	メイジ	レベル	11
サポートクラス	ペインター	Lv.1:	ペインター	性別	女
称号クラス				年齢	23
種族	ヒューリン			境遇	平凡
出自 (効果)	一般人			目標	探索

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	10	24	9	9	24	15	6
ボーナス	3	8	3	3	8	5	2
クラス修正	0	1	0	3	2	2	0
他修正							
能力値	3	9	3	6	10	7	2

HP	71
MP	118
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	彩虹の筆	至近	-1	3	0	0	0	-1	0
左手	彩虹の盾					2	4	4	
頭部	彩虹のベレー帽					2	1		
胴部	レビテートローブ					2			
補助	封精長靴					2			
装身具	画家の筆								
能力値			9	0	3	0	7	13	8
スキル	ニブル、ダグデモア							5	
その他									
総計(右)			8	3					
総計(左)			9	0	3	8	12	21	8
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	10			10	+ 2 d
トラップ解除	9			9	+ 2 d
危険感知	10			10	+ 2 d
エネミー識別	6			6	+ 2 d
アイテム鑑定	6			6	+ 2 d
魔術判定	6			6	+ 2 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
名馬	MPポーション
バックパック	筆記用具&チョーク
ベルトポーチ	毒消し
小道具入れ	万能薬
ポーションホルダー	
冒険者セット	
精霊の絵の具	
エリンディル西方トラベルガイド	
ハイHPポーション	
ハイMPポーション	
野菜	

現在重量: 20 | 最大重量: 27 | 所持金: 8412 | 預金・借金:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ハーフブラッド	★	-	パッシヴ	-	-	-		
効果:	タイミングがメイキングのヒューリン以外の種族スキル一つを修得。ただし幸運基本値-3							
ニブル	1	-	P	-	自身	-		
効果:	【行動値】+3							
	○							
効果:								
リゼントメント	1	-	効果参照	-	自身	自動成功	シナ1	
効果:	ダメージ+[CL×10]							
マジックコート	1	5	Set	20m	単体	魔術		
効果:	魔防+5 R持続							
マジックブラスト	1	3	ムーブ	-	自身	自動成功		
効果:	魔術を範囲(SL×2)化							
	○							
効果:								
ペイント:レッド	5	5	メジャー	20m	単体	魔術		
効果:	武器ダメ+[SL×3] S持続							
ペイント:グリーン	5	5	メジャー	20m	単体	魔術		
効果:	行動値+[SL+1] S持続							
ペイント:ブルー	1	5	メジャー	20m	単体	魔術		
効果:	【魔法防御力】+[SL×2]							
アーティストマジック	1	-	P	-	自身	-		
効果:	魔術(絵画)の判定器用使用							
パレット	1	-	P	-	自身	-		
効果:	ペインターの器用判定+1D							
アディティブカラー	1	-	P	-	自身	-		
効果:	加色混合表使用可能							
ソードペイント	1	6	メジャー	20m	単体	魔術		
効果:	魔攻[2D+5]無色付き+2D							
バンテージペイント	1	5	メジャー	20m	単体	魔術		
効果:	HP回復[2D+CL×3]							

簡単な設定
「こんな絵の何がいいんだか」
誰とも違う人生を歩みたい。そのために彼女は画家となった。昔、山に登った時に見た「何か」を描くために、その「何か」をずっと探している。画家としての腕はかなりのもので、売ればそれなりの値段にもなる。しかし、彼女はそれに納得のいっている様子はなく、売り物にすることはしない。
好きなこと: ユニーク 嫌いなこと: 凡庸

長い方の設定
「あの日、私は画家になった」
私は普通が嫌いだった。普通の家庭に生まれて、ありふれた人生を歩んでいく。もちろん育ててくれた両親には感謝しているし、実際わたしは恵まれている方だと思う。成人するまで何不自由なく食べ物にありつけた。多くの人は私のことを賢者だというだろう。私は少し不自由でも刺激のある生き方を、誰にも真似できないような人生を送りたかった。もしかすると、隣の芝が青く見えているだけなのかもしれない。それでも、私はこのまま一生この生活に捕らわれるのを恐れた。だから旅に出たのだ。冒険者として。冒険者なんてありふれた職業は心底嫌だったけど、それを言い訳にすれば簡単に家をでることができた。それからしばらくは冒険者として働いた。冒険の日々はそれなりに刺激的だったけれど、冒険者はみんなそんなものだとか聞かされて嫌になった。励ましのつもりで言ったのだろうが、私にすればとんだ傍迷惑だ。それでも中途半端に刺激を受けてしまったせいで、冒険者からは離れられなかった。なんとという街だったか。仕事で訪れた街で私は絵に出会った。早く準備を終えて、街をふらふら歩いていた私は裏路地の小さな店に入った。そこに私を変える何かがあるのを期待して。それが画廊であったということは後から知った。個性も何もないポクラな絵が並んでいて落胆した。それでも私の乾いた魂は潤いを求めて必死に何かを探した。そこで見つけたのだ。その何かを。
その絵は絵の具を塗りたくったゴミの下に埋もれていた。なんて酷いことをするのだ。その絵はお世辞にも上手とは言えなかった。筆使いは荒く、キャンパスもポロポロだ。しかし、その絵には私の求めているものがあつた。売れゆきなんて気にしない、誰にも媚びない、理解なんてしなくていいと言わんばかりの作品だった。それが初期の「彩虹」の作品であることは今の私も知らない。私もこんな人生を送りたいと思った。私が私であることを私にわからせるために生きるのだ。
私はすぐに画家になることを決めた。依頼のことをすっかり忘れ、最低限必要な画材を買い集めた。ギルドのみんなには悪いことをしたと思っている。虹色の

